

スキマへの投稿募集中



スキマTimes

詳しい投稿方法は
1253 ページに！

マグロ釣りは1月に始まる。

実際の釣行は6月下旬から8月上旬だが、船の予約争奪戦が熾烈をきわめるのだ。油断しているとすぐに枠が埋まってしまうため、1月15日の受付開始と同時に電話を掛けまくって確保する。台風の時期でもあり、3日分は確保したいところだが、2023年は6月下旬の1日しか取れなかった。

たとえ1日でも船の確保はできたので、準備期間に入る。予備の道具（主には竿とリール）も含めてじっくりと整備する。針や糸に不備がないか点検を繰り返し、シミュレーションを重ねてその日に備える（完璧を追求するのは麻酔科医のサガである）。

当日は朝2時に東京を出て、横須賀市の長井漆山漁港に移動する。生きたイワシを生け簀に入れて（マグロは活きのいいイワシしか食べない）、4時半に出港。一路南下して、伊豆大島を越えた先の、利島と新島間の海域を目指す。船に揺られること4時間、目指す海域に到着した。すでにマグロが跳ねている。血が沸き上がる。「さあ！」とはやる気持ちを抑えつつ、イワシをつけ……あれ？ イワシ小さい？？？

本来はマイワシを使うのだが、大半がカタクチイワシ（煮干しになるやつ。そもそも小さい）である。そのうえ、半分以上死んでいる。終わった……。

生き残ったカタクチイワシをつけてみるが見向きもされず、飛び跳ねるマグロを眺めるだけで帰ってきた。獲物のない帰路は遠い。

これでは終われないと後日、平日にお休みをいただいてリベンジした（写真1）。

マグロ釣りは魚との力勝負である。時速100kmで泳ぐ30kgの肉の塊を2mの竿先にぶら下げて引き摺り上げる。炎天下での30分以上のファイトは肉体を酷使する（写真2は釣り上げた後に倒れ込む筆者。意識が朦朧としている）。今年はあやうく熱中症になる場所だったため、来年に向けてジムでの精進に余念がない。あと何年できるかなあ。

（坪川 恒久）



▲写真1



写真2▶